

親子聖書日課

NO.1873 2024.8/18-24

名前

[日]祈りは、独り言でも気休めでもありません。祈ったことは全て「御もとに届く」のです。聴かれない祈りは一つもありません。だから、詩人は「朝ごとに」「昼、夜」一日中、祈りました。祈りこそ、自分を変え、相手を変え、世界を変える力があります。

[月]苦難に遭った時、「主の慈しみはどこにあるのか」と、主への信頼がぐらつくことがあります。しかし、心配は無用です。私達に注がれた主の慈しみは、とこしえに絶えることはありません。死んでも復活の命が与えられているので、安心です。

[火]人生はわずか80年足らず、その一生は苦勞と災いに過ぎず、塵に帰ります。人生は虚しいものです。しかし、主に出会った人は違えます。永遠の住いが用意され、復活の朝には、主の慈しみで満ち足ります。ここに真の希望があります。

[水]「寄らば大樹の陰」で、権力者についていれば安心という人がいますが、そんな生き方はあてになりません。弱く見える母鳥の翼の下にいるほうがあてになります。それは母鳥がその愛で、力の限り守ってくれるからです。神様も同じです。

[木]若くいられる秘訣は、「神の家」に植えられ、「神の庭」で育つことです。それは、「主の家」教会で、「神の庭」御言葉という霊的な養分を頂き、神の恵みを分かち合い、神に感謝することです。すると、最期の時まで信仰が成長し、霊の実を結びます。

[金]地震や津波・・・自然界の脅威に恐れを感じますが、天地万物を造られた主は、自然界を支配しておられますから、大丈夫です。主の救いは、死よりも強いのですから、主を心に迎えるなら、決して揺らぎません。SOSは、主にこそ発信しましょう。

[土]詩人は「主よ、報復の神」として立ち上がり、高ぶる者に報復して下さいと祈ります。報復とは「正しく報いる」ことです。決してやり返すことではありません。義なる神だけが、各自の行いに正しく報われます。自分で報復してはいけません。



	聖書	問題	答え
日	詩編 88:1-19	私の祈りはどこに届きますか。	
月	89:1-53	それでもなお、主は何を彼から取り去りませんでしたか。	
火	90:1-17	主は人を何に返しますか。	
水	91:1-16	神は羽をもってあなたを覆い、何の下にかばって下さいますか。	
木	92:1-16	神に従う人は白髪になってもなお何を結びますか。	
金	93:1-5	主こそ王。世界に固くすえられ、決してどうすることはありませんか。	
土	94:1-23	どのような神として顕現し、全地の裁き手として立ち上がりますか。	
		感想と祈りの課題	